

総合学問・スポーツ科学の“いま”と“未来”

—フイジカルエリート育成ではない新・学問領域の潮流を追う—

大学の学部・学科・コースの新しい潮流「スポーツ科学」が今、注目されている。ここで取り上げる「スポーツ科学」とは、従来の体育大学や教育大学に象徴される体育教員の養成や、アスリート育成とは異なり、学びの条件として運動能力を問わない、スポーツ関連分野のことである。実際に学問領域において「スポーツ科学」および「スポーツ関連分野」を掲げる大学は全国的に増加し、スポーツを取り巻く学問分野はより多面的に、学びの裾野が広がっている。東京オリンピック2020大会を経て、高校生の進学先としても人氣が高まりつつある総合学問「スポーツ科学」のいまと未来像はどのようなものなのか。今回は4つのスポーツ関連企業・団体、さらに3大学の教育現場への取材から探ってみよう。

「スポーツ科学」を学ぶ大学が全国的に増えている

本年1月、(株)さんぼうでは全国の大学・短期大学へ、進学情報誌掲載のための学問領域に関するアンケート調査を実施した※。回答のあった大学については、学生が学べる学問領域の分野選択(任意回答)を尋ねているが、その中で「学びのすすめNo.6体育・スポーツ・健康系」の「大学・短期大学一覧」に掲載している236校のうち、「スポーツ科学」と回答、若しくは学部学科名に「スポーツ科学(スポーツ薬学、スポーツ福祉含)」を冠した大学・短期大学は65校(大学59、短大6)、「スポーツビジネス(プロモーション、マネジメント含)」は44校(大学37、短大7)、「スポーツ栄養・医学(食品含)」17校、「スポーツ文化」7校、「スポーツ情報(メディア)」3校、「スポーツ心理」3校だった。

本アンケートの学問系統は各大学の意向で分類しているが、他系統(家政系、医療系、情報系、経済系、心理系など)の大学でも実際に「スポーツ科学」をはじめとしたスポーツ関連分野を学べる大学が一定数顕在しており、上記数字より「もつとある」と考えた方が妥当であろう。さらにこの傾向には地域格差があまりみられず、地方国立大学にも及んでいるようだ。日本の大学全803校から鑑みても、今や相当数の大学で学べる新しい総合学問であることを、本誌読者である高等学校の進路指導の先生方も是非とも知っていただきたい。

サッカーリーグ成功にみる地域スポーツの発展と企業・団体の活躍

※大学進学情報誌「学びのすすめNo.1～No.8」ジリ・ズ2023年度版制作に際し2022年1月全国の大学、短期大学に郵送でアンケートを実施。

1993年のサッカーリーグの発足は、スポーツと企業、地域社会における大きな転換点だったと記憶する。旧日本リーグ時代の社会人スポーツに「魔法」がわかり、観客もまばらだった各競技場がチケット入手も困難なほど全試合満員になった。この「魔法」をかけたのは、日本サッカー協会と各クラブチームを運営するビジネスパートナーたちである。オーナー企業の意向が強い既存のプロ野球に対し、サッカーリーグは発足当初から「地域スポーツの振興と地域発展」を一貫して謳い、クラブチームが地域社会に溶け込んで市民や地元企業の支援を得る仕組みを整えた。リーグの全国的な人気とともに、試合開催と事前合宿の受け入れを全国規模で実施した2002年サッカーW杯日韓共催大会も大成功を納めた。大分・中津江村のカメルン事前合宿が話題となり、日本サッカー協会は大会収益金等で東京・文京区の協会本部ビル(JFAハウス)を一括購入している。

サッカーリーグの成功は、スポーツとビジネスのより良い関係性の構築が、スポーツを取り巻く企業や地域全体の発展に寄与することを知るきっかけとなった。その功績は、競技スポーツのプロリーグ化へのビジネスモデルとなり、今日に至っている。

人体の基となる「アミノ酸」研究からトッパスアスリートの食・栄養サポートへ～味の素株式会社～

1909年、アミノ酸のひとつ「グルタミン酸」を原料とした世界初のうま味調味料「味の素」の開発・販売より創業した日本を代表する食品メーカー。スポーツ分野へは1995年の「アミノバイタル」発売から本格的な取り組み開始。2003年日本初のスポーツイベントの公共施設名に企業名を掲げる広告、命名権施設として東京スタジアムが味の素スタジアムに。同年JOC(日本オリンピック委員会)と「トナー契約を締結し、食と栄養サポートを明確。2009年、味の素が「アミノ酸」(NTC)の「ネーミングライツ」を取得。2017年より同施設内の管理栄養食堂「勝ち飯食堂」を、栄養サポートを通じて付いた見直し、生活者の栄養課題解決に活かしている。世界36カ国・地域に事業展開、1200の現地工場、130以上の国と地域に製品展開(2021年9月現在)。



トッパスアスリートが世界で勝つために栄養と向き合う「勝ち飯」とは

味の素(株)はうま味成分に含まれるアミノ酸研究から「おいしく食べて健康づくり」を創業の志に、現在は日本のトッパスアスリートの食と栄養サポートを精力的に行う企業としても広く知られている。これまでのトッパスアスリートの栄養支援について、グローバルコミュニケーション部スポーツ栄養推進グループ長の篠田幸彦氏は次のように述べている。

「2003年JOCのパートナー企業となり「ビクトリ

発行：大学情報センター (株)さんぼう内
〒131-0061 東京都渋谷区初台1-31-16 初台倉庫ビル
TEL 03-5302-8264 FAX 03-3378-7313
支社：名古屋、大阪、福岡 営業所：仙台、新潟、広島 ウェブ版 <http://times.sanpon-s.net/>
大学 Times Web <http://times.sanpon-s.net/>
Webメディア
大学の今とこれからを知る Webメディア
大学の今を伝える特集記事、各大学の最新ニュース(イベント、セミナー、取り組み)、教育関連のニュース(アスリート)を配信し、大学の今とこれからを伝える「大学 Times」のWeb版です。ブラウザは上記URLまたは、「大学 Times」で検索してください。



スポーツ科学の社会実装—現在地を探る

スポーツ科学は実学の総合学問として、現在は競技・アスリート支援の現場を中心に、その知見を製品開発や社会貢献、地域振興、スポーツ界全体の発展に寄与している。ここからは、スポーツ振興ならびに競技・アスリート支援で実績のある味の素(株)、(一社)日本スポーツツーリズム推進機構、(一社)日本スポーツアナリスト協会、(一社)日本スポーツメンタルコーチ協会に取材し、スポーツ科学および関連分野の“いま”を伺った。

主な注目記事

1 面	スポーツ科学特集 スペシャルインタビュー	味の素株式会社 日本スポーツツーリズム推進機構 日本スポーツアナリスト協会 日本スポーツメンタルコーチ協会
8 面	教授インタビュー 教授インタビュー Campus News	早稲田大学 東洋大学 女子栄養大学
11 面	イベントレポート Campus News	産業体育大学／九州産業大学 福岡女子学院大学・福岡女子学院大学短期大学部
12 面	大学 Pick Up 九州	大阪経済大学
13 面	大学 Pick Up 関西	愛知工業大学
14 面	大学 Pick Up 東海	東京工業大学
15 面	入試情報 連載シリーズ	専門職大学／専門職短期大学特集② 東京保健医療専門職大学
16 面		

「プロジェクト」をスタートしました。日本のトッパスアスリートの国際競技力向上のために作られた「ナショナルトレニングセンター」(NTC)では2009年からネーミングライツを取得しています。当社のパラアスリートへのサポートは2015年より開始していますが、東京2020大会決定後の2019年には、オリンピック・パラリンピック共用施設である「NTC・イースト棟」も完成し、そちらの権利も取得しました。NTC内の食堂は「勝ち飯食堂」と呼ばれています。これにより、「何のために食べるのか」という「勝ち飯」のコンセプトを常にアスリートに意識付け、日々、栄養と向き合える体制を作っています。JOC、JPC(日本パラリンピック委員会)のほか、水泳、バドミントンなど8つの各競技団体、一部個人選手の栄養サポートも行っています。大会の試合本番から遡り、いつ、何を食べるかという、アミノ酸を活用した“栄養戦略”を選手と一緒に考え、取り組んでいます。オリンピック本番では選手村近隣に栄養戦略に基づいた食事や試合後のリカバリーのための補食を提供する拠点「Gロードステーション」を設け、選手からは「役に立った」という感謝の声も頂いております。さらにロンドン